

「平成30年度 未来をつくろう 市民と市長の地域懇談会」  
で出された鉄路のあり方と新庁舎建設基本構想に関する意見の抜粋

●新庁舎を建てる位置は現在の場所と同じだが、防災機能を持つた災害に強い新庁舎というふうな計画を作つてほしい。現在の場所で水害が起きた場合、浸水50cmを想定したとしても、実際の水害で想定外だったところでの対応策も用意してほしい。

●災害時に庁舎の機能が停止しないよう電源確保も重要なこと。災害にきちんと対応できる庁舎を建ててほしい。にぎわいのある庁舎づくりをしてほしい。建物が新しくなると市民は使いづらくなるので考慮してほしい。

●使用料が高くなると市民は使いづらくなるので考慮してほしい。

●富良野市の今後の財政はどうなるのか、高齢者が増えて人口は減っていく。収入が減つてくるなかで医療費や福祉費は増大し支出は増えていく。そのなかで毎年1億7千万円を負担する。今後、財源がどれだけ残つてどれだけ住民サービスに影響があるのかを明らかにしてほしい。

●人口が減ると地方交付税が減ることで財政規模も縮小する。借金を返すのは固定経費で変動しない。そうしたことと想定したところを明確にしてほしい。

●新庁舎の建て替えは、お金がないのであれば、補助金でやつた方が良い。庁舎も文化会館も年数が経っているので同時に進め方が良い。

●庁舎の建替えは、いずれ必要。将来の市民負担を考えても今やるべき。

●富良野小学校は洪水のときに1m浸水するため避難場所になっていた。周辺住民のために新庁舎を避難場所としてほしい。

●新庁舎建設時、想定外の災害に対しブラックアウトなどに対処できる大型発電設備、ハード面とソフト面での強化をしてほしい。

昨年度に続き鉄路の存続について多くの意見を頂きましたが、今月号では新庁舎建設に関する意見を多く掲載しました。

新庁舎建設事業は現在、基本計画案を作成するため、新庁舎建設検討委員会、市民ワークショップ、職員ワーキンググループで検討を進めています。検討内容は広報ふらんで概要をお知らせしているほど

か、市ホームページや市役所ロビーに報告書を設置して公開しています。また、新庁舎建設検討委員会は傍聴することもできます。(傍聴に関する問い合わせは財政課 39-2306)

基本計画案がまとまったときは市民説明会を行い、市民のみなさんから意見を募集するパブリックコメントを実施します。

## 1 新庁舎の位置と機能



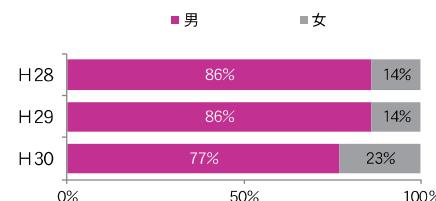
## 2 新庁舎の事業費

市民が不安に思うのは内容がわからないまま事業が走り出すということ。市民の意見をどうやって拾い上げるのか。機会を見て再度説明会をするとしても、その間に何を検討しているのか情報を公開して欲しい。

## 4 鉄路のあり方



### ■男女別参加者の割合の推移



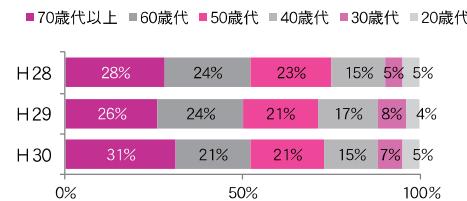
平成 30 年度

## 地域懇談会の報告

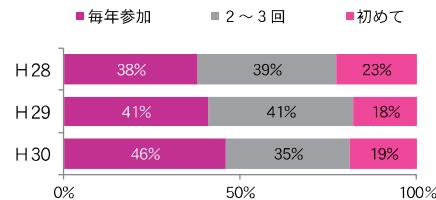
市民のみなさんと市長がまちづくりについて意見交換する地域懇談会。今年度は、「鉄路のあり方について」「富良野市新庁舎建設について」をテーマに15会場で開催しました。今月号では参加者アンケートの結果と、「鉄路のあり方」「新庁舎建設基本構想」に関する意見を抜粋して紹介します。

(企画振興課 39-2304)

### ■年齢別参加者の割合の推移

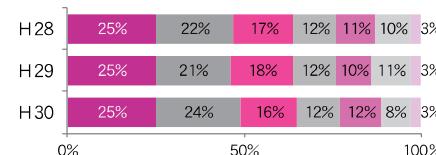


### ■参加回数別参加者の割合の推移

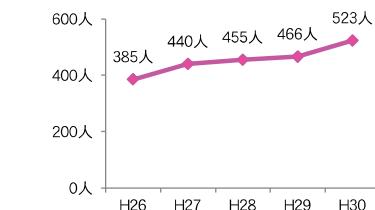


### ■地域懇談会参加のきっかけ

- (グラフの左から順に)
- 市の取り組みを知りたかったから
- 市長の話を聞いたかったから
- 町内会の役員だから
- まちづくりに興味があったから
- テーマに興味があったから
- 地域の実情を知って欲しいから
- その他



### ■延べ参加者数の推移



年々参加者数が増えている地域懇談会。今年度は、昨年度から57人増えて523人の参加となりました。平成26年度と比較すると138人の増加です。15会場のうち、最も多かったのは西地区コミセンで56人、次いで瑞穂コミセン55人、南コミセン51人でした。

男女別の参加割合は、男性77%、女性23%で、女性の参加割合は昨年度から9ポイント増えました。年齢別では子育て世代の40歳代以下が27%、60歳代以下では69%となっています。

参加のきっかけは、「市の取り組みを知りたかったから」が25%と最も多く、「市長の話を聞いたかったから」は昨年度から3ポイント増えて24%、「テーマに興味があったから」は12%でした。

# 新庁舎建設事業 News 4

今回は市民ワークショップについてお知らせします 財政課 39-2306



## 第2回市民ワークショップ(12月4日開催)

### 主な意見交換の内容

- 市民 停電時の非常用発電機のバックアップの時間は?
- 職員 最低でも72時間(3日間)は確保したい。
- 市民 木のぬくもりがある庁舎がいい。
- 職員 市民 木は維持費がかかるが、部分的な使用を検討していかたい。文化会館の大ホールの席を可動席とした場合、通路を昇り降りする時の雑音や故障が心配。
- 市民 市民 子どもの遊べるスペースも作ってほしい。研修室などの貸館をガラス張りにすると、さまざまな市民活動が見えて良いのでは?
- 職員 他市の施設でもガラス張りの貸館がある。実際に市民活動が見え雰囲気が良かったので検討していきたい。

新庁舎に備える機能 ~4つの部会の中間報告~

## 1 防災・セキュリティ部会

~防災拠点機能を発揮できる災害に強い庁舎、セキュリティ機能を強化した庁舎の実現に向けて~

- 防災拠点機能
- セキュリティ機能

非常時の行政機能の継続性確保のため、電力・水道・通信回線などのライフラインの整備や、災害対策本部、防災資源材の備蓄、一時避難機能の検討。建物の防犯や情報管理のセキュリティ対策の徹底。

## 2 窓口・行政事務部会

~訪れる人にやさしく、コンパクトで効率的な庁舎をめざして~

- 窓口機能
- バリアフリー・ユニバーサルデザイン機能

市民目線に立った窓口のあり方を検討。市民の利用頻度の高い窓口を低層階に配置。ワンフロアサービスを基本に、業務や時期によってワンストップ窓口やシーズンカウンターを導入。衝立てなどで窓口のプライバシー保護を徹底。誰もがわかりやすく使いやすい案内表示を検討。

### ● 行政事務機能

オープンスペースを基本に、コンパクトで柔軟、効率的な配置が可能なユーバーサルレイアウトを導入。

新庁舎建設 Q&A  
市民のみなさんの疑問にお答えします

新庁舎を建設すると税金が上がるって本当?

市の事業や行政サービスは、市民のみなさんの負担である税金で賄われていますが、税金は法律や条例にもとづき税率が定められていますので、個人の所得の変動により上がることはあっても、市の独自の政策や行

## 3 市民活動支援部会

~市民が気軽に訪れて親しみやすい庁舎とするための市民活動支援・文化会館のあり方~

### ● 市民活動支援機能(文化会館機能含む)

大ホールの用途や、客席形状を現状の固定席から多目的利用ができる可動席が比較検討。市民活動を支援する貸館機能や、市民が気軽に集える市民交流スペースのあり方を検討。

## 4 建物構造部会

~耐震性能を確保し災害に強く、人と環境にやさしい庁舎をめざして~

### ● 防災拠点機能(建物構造)

庁舎の耐震性能は耐震構造を基本とし、重要諸室は免震床などで対策。庁舎の水害対策に、1階フロアレベルを想定浸水0.5m以上かさ上げするなど検討。

### ● バリアフリー・ユニバーサルデザイン機能(建物構造)

### ● 省エネ・省資源機能

### ● 維持管理機能

わかりやすく明快な動線、空間設計、サイン計画とし、庁舎入口付近に思いやり駐車場を設置。

外断熱工法や断熱サッシ、遮熱性や耐久性の高い防水工法の採用。自然採光・通風による自然エネルギーの活用、庁舎の長寿命化、維持管理や修繕更新費用の縮減などを検討。

政サービスの有無によって、その都度税率が変動する制度ではなく、新庁舎建設により税金が上がることはありません。庁舎の建設には、多額な費用がかかりますが、いずれは必要となる再整備の費用負担ができるだけ最小限にするため、前号のNEWS❸でお知らせのとおり国の財政支援を活用できる今が、市民の生命と財産を守る防災拠点として「災害に強い庁舎」に再整備するチャンスであると考えています。

冬の間、森林学習の担当者は何をしているの。このような質問を時々いただきます。森のつまようじリストと同じように、春が来るまで樹木の根元でぐつぐつ冬眠できるなら、こんな幸せなことはありません。さまざまな大人の事情から、そうした訳にもいづれ、森林学習担当者は、今日も工作ソリスのように、元気に仕事をしています。

そんな森林学習を支える活動の一つが「プロクラム」です。神社の森を体感しながら富良野地域の森がどんな特徴を持っているのかを学ぶため、子どもたちが森でテーマに沿って活動が「プログラム」です。来年度で開始から4年目を迎える森林学習において、「プログラム」も年々進化・改善されながら至ります。小学校のプログラムで、現在の基本路線となっているものは、「神社



▶生き物マップを発表する児童

「木材の利用」「落ち葉の中の生き物」の3つのプロクラムの中から、1つのプロクラムを各校が実施します。小学校のプロクラムよりさらに踏み込んだ内容ですが、「富良野の森を意識する」という基本的な考え方は変わりません。「生き物マップ作り」と「落ち葉の中の生き物」は、協力関係にある北海道教育大学旭川校の学生が発案したプロクラムです。「生き物マップ」はほぼ確立されましたが、「落ち葉の中の生き物」は、この冬にも少し修正を加えています。子どもたちに学んでほしいこと、知つてもらいたいことをこれからも森林学習に携わる人たちと一緒に試行錯誤しながら、プロクラムと向き合っていきたく思います。そんな冬眠できないエゾリス大人の事情でした。

厳しい寒さが続き、春が待ち遠しい今日このごろです。さて、地域おこし協力隊の任期が3月で終了します。活動中には、日々の地域情報発信に加えて、胆振東部地震などの災害時臨時放送も経験し、情報収集・発信の重要な経験をしてきました。まだ、市社会教育課の委託事業「ふらののみらいらぼ」では、ラジオ番組制作「クショウ」をはじめ、「ませて、まなぶ」を、言葉に多世代型のイベントの



富良野  
浦田 芳穂さん



富良野  
浦田 芳穂さん



## 地域おこし協力隊通信 32

フェイスブックで情報発信をしています

富良野市地域おこし協力隊

検索 フェイスブックをチェック!



間博物館(生涯学習センター内)  
42-2407